

# 顔

①方フェやバー、病院にお寺まで。一角に本棚を置き、立ち寄る人に本を寄贈してもらおう。登録すれば誰でも借りられる。昨春、そんな図書コーナー「まちライブラリー」を提唱、東京、大阪など37か所に広がり、蔵書も計7000冊を超えた。

②立場は森ビル社岡。広報部長や取締役も務めた。29歳から携わってきた寺子屋のような文化教育事業は、六本木ビルズ」の目玉事業に発展した。だが規模の拡大で、鼠苦しさも感じるようになっていた。

③2010年、志願して関連財団へ出向。自分の目が届く

④表紙の内側には寄贈者のメッセージカードが挟まれ、みんな人は感想を書き込める。「本が人の縁を結ぶ紙(神)になるんです。人と人をつなぎ、学び合える場になりたい」

(社会部 高野光一郎)

## 資料①

完成例 不屈の建築士

世界中どこへでも、困っている人々の元へ紙管をもって飛び回る建築士。

アルファ・アアルトという建築家の監修を一九八六年に開催した時、使用した木を廃棄することを「もったいない」と感じ、代替可能な材料を探した。そして、安くてリサイクル可能な紙管に目をつけた。紙管は、環境に優しく、軽く、安価で組み立てが容易にできる。強度も充分であることに気付いた。

一九九四年、ルワンダで二百万人が難民になった際、テントの支柱に用いる森林の伐採で、甚大な環境破壊が起きた。支柱に紙管を使う「シェルター」を提案し、ジュネーブまで交渉に行った。これがボランティア活動の始まりになった。

阪神大震災では、教会や仮設住宅を紙管を用いた。同時に、仮設住宅でのプライバシー確保の必要性を感じ、紙管の間仕切りを考案した。新潟県中越地震や福岡・四万沖地震の被災地での設置を経て、改良を重ねた。

東日本大震災では、設置に自治体の担当者の理解が得られず、時間がかかってしまった。自治体と、国が防災協定を結び迅速に提供できる仕組みを整え、熊本地震では、迅速に設置を行った。

資本金集めとして

行動力と決断力の根底には、地震による死傷者は、建物の倒壊によるものであり、建築士の責任だという思いがある。「困っている人の住環境をよくして、居心地が良いと喜んでもらうことが私の喜びであり、建築士としての使命です」

2023/08/04

坂茂さんを新聞記者として紹介しよう

氏名

○教科書を読み、新聞記事の内容を下書きする。  
一、新聞の題

不屈の建築家

二、どんな仕事をしているか

世界中の困っている人のために、紙管をもって飛び回る建築家。

三、その仕事をするきっかけ

アルバアルトという建築家の展覧会で会場を作ることにあった時に、木をふんだんに使う事がなかったので、安く、丈夫でリサイクル可能な紙管に目を付けた。

VAN	東日本大震災	阪神淡路大震災	ルワンダの難民キャンプ	具体例
⑭ ⑮	⑪ ⑫ ⑬	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑤ ⑥	段落 行動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰のいない</li> <li>・ 正しいと思ったことかやりきれない</li> <li>・ 困っている人の元にかけてあげられない</li> <li>・ 出陣に行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常時にデモンストラーション</li> <li>・ 出陣に設置したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地に行った</li> <li>・ 紙管で教会を建てることを提議</li> <li>・ 資金を集めた</li> <li>・ 紙管で仮設住宅</li> <li>・ 紙の教会</li> <li>・ 紙管の間に切りを開発</li> <li>・ 紙管を重ねた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シェルターを提議</li> <li>・ 本部に手紙</li> <li>・ ジュネーブの担当者に会いに行く</li> <li>・ 紙の難民用シェルターの開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難民キャンプの悲惨な様子</li> <li>・ 衝撃を受けた</li> <li>・ これ以上は待ってられない</li> </ul> <p>行動を支える思い</p>

坂茂さんのここがすごい  
 ・ 行動力・なんとかしたいという熱い思い・自分で行動する  
 ・ 世界中の困っている人の元にかけてあげる

# 資料③

# 資料④

VAN	東日本大震災	阪神淡路大震災	ルワンダの難民キャンプ	具体例
⑭ ⑮	⑪ ⑫ ⑬	⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑤ ⑥	段落 行動
<p>R18 平常時にいろいろ自分自身の防災の為にデモンストラーションを行った。R19 一か月前で三十七ヶ所に設置</p>	<p>R14 約五十ヶ所の避難所に間仕切りを提供。 R14 学生がボランティアとして避難所を回った。</p>	<p>R17 被災地へ行った。 R13 紙管で教会を建てることを神々に提案 R18 資金を集める。紙管で仮設住宅を建てた。 R10 紙の教会を建てることになりました。 R16 改善を重ねていく。</p>	<p>R15 紙の難民用シェルターを開発 R19 ジュネーブが担当者に会いに行く R13 本部に手紙 R10 支援に紙管を使うシェルターを提案</p>	<p>行動を支える思い R19 これ以上は待てられない R15 難民キャンプに衝撃を受けた</p>

○教科書を読み、新聞記事の内容を下書きする。  
一、新聞の題

二、どんな仕事をしているか  
紙管を使って環境も人の心も支える建築家

三、その仕事をするきっかけ  
アルバアルトの展覧会を開催した時に、会場を作ることにやり、木を展示後に捨てるのがもったいないのと考え、安くリサイクル可能な環境に目を付けた。

VAN	東日本大震災	阪神淡路大震災	ルワンダの難民キャンプ	具体例
⑭ ⑮	⑪ ⑫ ⑬	⑦ ⑩	⑤ ⑥	段落
<p>平常時にいこうな自治体の防犯の日 トモニストレーションを行つ VANが防犯協定を結ぶ 能率内に開のり提供</p>	<p>開のりを車に積んで避難所に向ふ 約五十か所に提供できた</p>	<p>紙管で教会を建てることを 資金を集め紙管で仮設住宅 紙管の開のりを開発 ↓改良を重ねた</p>	<p>一月末被災地へ行った 紙管で教会を建てることを 資金を集め紙管で仮設住宅 紙管の開のりを開発</p>	<p>一九八六年にアルヴァリアの展覧会の会場を作ることに りました。木を使つて計算できないことを展示後に捨てるやむを得ない とから、安く、リサイクル可能な材料を探している時、事務所に と見て使ってみると、思った以上に強度があり、他にもたくさん利点があつた と見えて、使ってみると、思った以上に強度があり、他にもたくさん利点があつた</p>
<p>迅速に提供</p>	<p>迅速に提供</p>	<p>被災者の生活環境がよくなる ように</p>	<p>難民キャンプに衝撃を与えた これ以上は待ていられた</p>	<p>行動を支える思い</p>

資料⑤

○教科書を讀み、新聞記事の内容を丁寧にする。  
一、新聞の題  
二、今どんな仕事をしているか  
三、自分の信念をどう表現し、建設的か  
四、その仕事をするきっかけ

体の担当者に提案しても理解されず、最初に戻つた。三つ、断らねばならぬ。絶対、諦めず、提案し続けたい結果、約五十か所が受け入れ、提供することができた。自治体の防災の日にプレゼンテーションを行い、理解を得られるようにし、自治体と坂茂が携わるVANが防犯協定を結び、迅速に提供できるようにした。このきつと坂茂はこれからも、この紙管を使い、世界中の人々を支援し、助けていくのである。

世界中の困っている国に紙管を使って、簡易的な住居的建物を作り、人を助けている建築家。アルヴァリアアルトという建築家の展覧会を開催した際、木を大量に使用し、廃棄するのがもったいないと感じた坂茂は安く、リサイクル可能な材料を探し、自分の事務所にあつた紙管に目をつけ、紙管はリサイクル可能で、軽く、安価で、組み立ても簡単にでき、強度も重なることで、十分に耐えることに気付いた。

資料⑥

ルワンダで武力衝突があつた時には、すぐにUNHCRの本部へ手紙を送つた。だが返事がこないため、直接ジュネーブまで行き、紙の難民用エンタープライズを開発した。阪神淡路大震災が起きた時には、何かできることはないかと思ひ、被災地へ行き、資金を集めて仮設住宅を造り、そこで信頼を得て、ボランティアの力も借りて紙の教会を造ることができた。東日本大震災が起きた時には、問任切りを車に積み、ボランティアと共に避難所を回つたが、自治

世界に紙の建築を

愛に育まれる建築家。ある時坂茂はアルヴァ・シヤールとこの建築家の展覧会の会場をつくることにした。会場には木を使った。たのたが、つくったあとに木を廃棄するのはもったいない。そしてなにより予算がない。安くして、リサイクルのことで、人々都合のよい素材はないものか。と悩んでいた時、坂茂は運命の出会いを果たす。事務所にある、紙管が目にふれた。この時坂茂は電流走る。「これだ」と思った。

が報道され受け入れが進み五十か所に提供された。この時の課題は管理者の説明に時間がかかっていたことだ。そこで坂茂は、いくつもの自治体と防災協定を結ぶ。迅速に提供できるようにした。そのかいあって、熊本地震の時は一か月半で三十七か所に設置できた。坂茂は常に建築家はどうか社会に貢献できるのかを考へていた。その結果、世界各地を飛び回り、テレビ、教養、簡仕切りなど

た。坂茂はこの紙管を使い様々な物を建てた。ルワンダでは支柱に紙管を使いシエルトを。阪神・淡路大震災の時、神戸市では仮設住宅と教会を建てた。その後も被災者を重ねてい。た。東日本大震災の時、紙の間仕切りを携え避難所を回った。しかし、なかなかに紙管のしめもろさか三十分で断れ続けた。それでもあきらめずに粘り強く交渉し、するとどうやかく受け入れてもらえた。このこと

資料⑦

とを建てるようになった。建物か前九ヶ所かをしたり、七ヶ所たり。その間に責任を感じ、生活環境の改善に力を尽くしている。使用人に居心地が良いと喜んでほしいという思いが、坂茂の行動を支えているのだ。

紙を使い人々のために生きる建築家

紙管を使い、いち早く世界に知られる。坂茂は、紙管を使い、いち早く世界中の国々でいる人々を建築物で救う建築家だ。子ルワンダ、シエルトの展覧会を開催した時に、木を大量に使うことをもたないといふ考え代替として安価でリサイクルが可能で、木材よりも軽く、強度が出せる紙管を探した。一九九四年、ルワンダで二百万人以上の難民の様子を見て、坂茂は衝撃を受けた。早く難民を救いた

二〇一一年三月、東日本大震災避難所に間仕切りを配り、たが三ヶ所まで断られ続けた。その後も、少しでも居心地がよくなるようにと避難所を回り、ようやく受け入れてもらえた。獲得に時間がかかっ。てしま。た。ここが課題として残り、デモンストラーションを行。い自治体と防災協定を結んだ。二〇一六年、熊本地震では防災協定により間仕切りの普及が迅速な。た。このように坂茂は、さまざまは

消書き

資料⑧

方法で住環境を改善し建築家として社会に貢献しているのである。

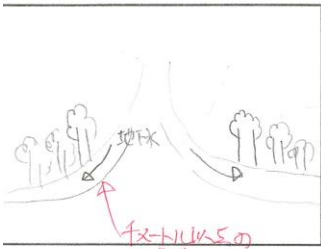
ルワンダをNHKの本音に提案した。だが、坂茂は、紙管を使い、いち早く世界中の国々でいる人々を建築物で救う建築家だ。子ルワンダ、シエルトの展覧会を開催した時に、木を大量に使うことをもたないといふ考え代替として安価でリサイクルが可能で、木材よりも軽く、強度が出せる紙管を探した。一九九四年、ルワンダで二百万人以上の難民の様子を見て、坂茂は衝撃を受けた。早く難民を救いた





# 資料⑬

3/17



植生の  
標高差が下ってきて  
いる。

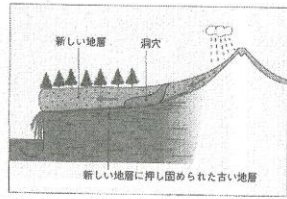


図3 白糸の湯や陣馬の流での地下水の流れ方

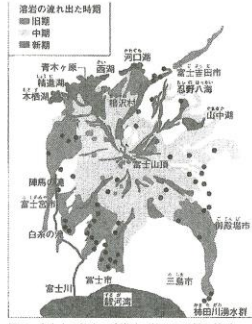
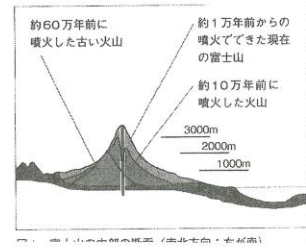


図2 富士山の地殻の溶岩流が流れた時期と場所 (●は主な湧水)



富士山の地殻の断面 (赤は白糸の湯が流す)

間 (富士山に降った雨はどこへ、流すのは、どのようにな

富士山はそれ自体が二つの地層に  
重なって居る。水脈があり山  
頂や山腹にそたけされて降水は  
流下されてくる。  
富士山は地下水とつながっている。

新しい溶岩と溶岩流におし  
こまれて地下水は古くから  
しんじくすスポンジのようにな  
らして、その間を流れてい  
る。

約一万年前からふんかて積  
み重なった溶岩流を湧水と  
重ねた。溶岩流のまたふんにゆる  
いがある。  
溶岩流は地下水の流れる  
道があるが、それはふい。

約60万年前にふんかしてできた古い火山が  
ほん下にある。  
また、再かかして、できた火山がおぼ  
ついている。  
今は現在の富士山の形状になっ  
ていて、富士山は、二つの火山が  
つながってできている。

③